

# 国際交流レター

INTERNATIONAL EXCHANGE LETTER

2024 VOL. 46



# 海外の交流協定校



## 目次

巻頭言	学長 林裕	3
	国際交流委員長 向井洋子	4
TOPICS	第34回外国人留学生弁論大会	5
	台湾・東海大学学生交流訪問団の来学	
	台湾研修団を派遣しました	6
	中国・北京出張報告 北原かおり	
	アメリカ・モンタナ出張報告 入江美里	7
	英語で話そう！CHIT-CHAT開催中	
交換教員	喬晋建（令和6年度 交換教員派遣 中国・深圳大学）	8
	鄭丞然（令和6年度 交換教員受入 韓国・大田大学校）	9
留学体験記（派遣）	短期認定留学 田上愛子（ホスピタリティ・マネジメント学科4年）	10
	サマープログラム 石村旺雅（リーガルエコノミクス学科2年）	
	台湾研修団 潮崎小百合（英米学科1年）	11
	交換留学（イギリス） 村上裕香（商学科3年）	

	交換留学（韓国）	井本陽南（経済学科3年）	12
	交換留学（中国）	水本咲（東アジア学科2年）	
<hr/>			
留学体験記（受入）			
	交換留学（韓国）	崔智琬（東アジア学科4年）	13
	交換留学（中国）	堀内愛麗（商学科2年）	
<hr/>			
	交換留学（中国）	寧彦寧（英米学科3年）	14
	交換留学（ベトナム）	Nguyen Thu Trang（経済学科3年）	
<hr/>			
	交換留学（台湾）	黄建凱（英米学科4年）	15
体験記（レジデント・アシスタント）			
	外口翔南子（ホスピタリティ・マネジメント学科1年）		
<hr/>			
国際交流の窓（新入留学生）			
	Gurung Khushi（ホスピタリティ・マネジメント学科1年）		16
	Pun Daya（ホスピタリティ・マネジメント学科1年）		
<hr/>			
	Tran Thi Phuong Thao（ホスピタリティ・マネジメント学科1年）		17
Photo Gallery			
<hr/>			
体験記(留学生カフェ)			
	吉村綾乃（東アジア学科1年）		18
	巖 昭 允（東アジア学科4年）		
<hr/>			
DATA	令和6(2024)年度	海外往来実績	19
	令和6(2024)年度	オンライン留学サロンの実績	20
	令和6(2024)年度	研修団往来	
	令和6(2024)年度	海外への派遣学生数	21
	令和6(2024)年度	出身国・地域別外国人留学生数	
	令和6(2024)年度	留学生の主な参加行事	
<hr/>			
国際交流委員会メンバー	令和5(2023)年4月～令和8(2026)年3月		22
国際教育課スタッフ	令和6(2024)年4月～		



## 熊本学園大学の源流と国際交流

学 長

はやし ひろし

林 裕

熊本学園大学の源流が東洋語学専門学校であることは周知のとおりです。東洋語学専門学校は、1942（昭和17）年4月に熊本県民のための外国語学校として、支那語科、露語科、馬來語科を擁して創立されました。第一期生入学式における新入生代表の宣誓文の一節「師弟同行、自由闊達の学風を樹立せんことを期す」が、今日の熊本学園の建学の精神である「師弟同行」「自由闊達」となりました。もうひとつの建学の精神である「全学一家」は高橋守雄第二代校長が唱えたものです。その後、東洋語学専門学校は、終戦を契機として1945（昭和20）年11月に「熊本語学専門学校」と改称することになります。その際に馬來語科に代わって英語科が新設されました。

熊本語学専門学校は、新制大学実施にあたって東洋語学専門学校創立以来の伝統を受け継ぐところの、外国語を専攻科目とする大学の設置をめざして「熊本外国語大学」の申請に着手することになります。その目的及び使命として掲げられたのが、「国際協和の精神に立脚して外国語及びそれを基底とする文化一般に関する諸学につき理論と実際にわたり研究教授し、文化国家の指導的立場に立つための一般教養と夫々専攻の外国語及びその地域の文化諸面についての研鑽を遂げることを目的とする」というものでした。

しかし、この構想は、校地、校舎、施設、教員組織、資産、経営の方針、将来の計画等各種の点において大学設置基準を充足するとの認定が得られず、申請取り下げのやむなきに至ったために、構想を新たに二年制の短期大学へと切り替わることになりました。こうして、1950（昭和25）年4月に外国語科、商科、社会科、別科を擁する「熊本短期大学」が設立されました。外国語科は1958（昭和32）年まで学生募集が続きましたが、1960（昭和35）年に廃止となり、長い年月を経て1994（平成6）年に「外国語学部」として復活することになりました。このように熊本学園大学の源流には国際交流の精神が宿っていました。

現在、英語圏およびアジアをはじめ15カ国・地域34大学と交流し、「交換留学」「サマープログラム」「短期認定留学」と国際交流プログラムも充実しています。コロナ禍もあって、外国人留学生の数は以前より少なくなりましたが、受入れ態勢を整備・充実させ、受入れ拡大を目指し、外国人留学生との触れ合いを通じて国際感覚を持ったビジネスパーソン、地域に貢献できるグローバル人材を育成したいと思います。本学の学生も、国際交流プログラムに基づく留学の他に、学部の海外インターンシップや海外研修を通じて異文化に触れる機会は拡大しています。今後は本格的な留学から比較的気軽に参加できるプログラムまで、本学の学生が海外と触れ合う機会を増やしていきたいと思っています。私自身は中国工商银行都市金融研究所との日中金融プロジェクトで訪れた、北京・上海・蘇州・成都・廈門のことが今でも思い出されます。在学中に記憶に残る海外体験をしてください。



## 未来へ一歩ふみだそう

国際交流委員長

むかい ようこ

向井 洋子

2024（令和6）年には、世界各国で大きな選挙が行われました。その流れを受け、2025（令和7）年には世界的な変化が現れると予想されています。このような社会背景をふまえ、学生交流や文化交流、学術連携など、さまざまな形態の国際交流に大きな役割が求められるようになりました。

若い時期にしか体験できない学生交流プログラムは、大学生にとって非常に貴重な経験となります。異なる教育制度や生活様式を体験することで、自国文化を再評価し、他国文化への理解が深まります。参加者は、自国の文化を紹介しながら、相手国の文化にも触れることができます。これらの交流は、国と国との心理的な距離を縮めるだけでなく、異なる立場や意見を持つ人々が対話し、感情や経験を共有して相互理解を促進します。

こうしたプログラムについて、学生のみなさんの多くは長期留学のイメージを持たれているかもしれませんが、しかし、コロナ禍を経て、熊本学園大学の国際交流プログラムは変化しました。今では長期留学だけが選択肢ではありません。

コロナ禍から現在まで、熊本学園大学国際教育課では、「留学生カフェ」や協定校の学生とZoom等を通じて行う「オンライン留学サロン」などの学生参加プログラムを設けています。また、国際交流会館で暮らしながら留学生をサポートするレジデント・アシスタント制度も存在しつづけています。

これらに加え、国際交流委員会では、新しく学生が気軽に参加できるプログラムを立ち上げました。海外協定校への短期研修プログラムを、現在の英国セントラル・ランカシャー大学でのサマープログラムと米国ハワイ大学マノア校での短期認定留学に加え、台湾の崑山科技大学や中国の深圳大学とのプログラムも新たにスタートさせました。インドのセイクリッドハート大学や米国のモンタナ州立大学とも短期プログラムの詳細を協議中です。参加者は、協定校において、現地の言語や文化を学んだり、現地企業や海外進出した熊本の企業を訪問したりできます。これらの短期プログラムに関しては、募集時期が来た際には大学のポータルシステムからお知らせしますので、ぜひご応募ください。

さらに、毎月行われる英語イベント「CHIT-CHAT」では、ゲストスピーカーに海外体験を簡単な英語で語っていただいています。このイベントは、英語を「学ぶ」のではなく、英語を話す生活をしてきた方々の話を聞くことで、自分自身も「話してみよう」と思えるようなきっかけを提供します。これまでに、熊本市の国際交流員やモンタナ州政府駐日代表、ニューヨーク州の弁護士、交換留学から帰国した学生、熊本国際空港株式会社の職員など、さまざまなバック・グラウンドの方々のご自身の経験を英語でお話ししてくださいました。こちらは随時開催していますので、ぜひご参加ください。

2024(令和6)年からスタートした、これらの新しい試みは、まだその効果が明らかではありません。それでも、2025(令和7)年には全学的な変化として現れることを期待しています。急速にグローバル化が進む熊本において、多様な視点や文化を体験的に理解し、多様な人材を受け入れる意識を高めることが求められています。国際交流は未来への投資であり、豊かな社会を築くための鍵なのではないでしょうか。

## 第34回外国人留学生弁論大会

6月12日（水）、外国人留学生弁論大会を開催しました。この大会は、外国人留学生の日本語運用能力の向上と日本人との相互理解を深めることを目的としています。今年は韓国、中国、台湾、ベトナム、ネパールの5カ国・地域から10名の留学生が出場しました。出場者たちは、自国と日本の文化の違いや、留学生活で感じたことなどをテーマに日本語で発表しました。

大会当日は、一般市民、在学生、教職員など約30名の観客が来場しました。ネパールからのブン ダヤさんは、教師になってほしいという母の願いに背き、一人で日本行きを決めた自分をそれでも今も応援してくれている母への感謝を語り、「一番嬉しかったこと」と弁論しました。また、最優秀賞とオーディエンス賞をダブル受賞した韓国からのキム スミンさんは、「きっかけ、そして今」と題し、高校時代に旅行で来日した際、困っていた自分を助けてくれた日本人に日本語で感謝を伝えられなかった経験が日本語学習のきっかけになったと話し、「熊本に来るきっかけとなったあの親切は忘れられない、大切な思い出」と語りました。



### 受賞者一覧

最優秀賞	外国語学部東アジア学科4年	キム スミン	韓国	きっかけ、そして 今
優秀賞	国際文化研究科国際文化専攻2年	リョウ シュンケツ	中国	カナリヤ
	外国語学部東アジア学科4年	オム ソユン	韓国	日本人の情について
奨励賞	商学部ホスピタリティ・マネジメント学科1年	ブン ダヤ	ネパール	一番嬉しかったこと
	商学部商学科4年	オン ビンケン	台湾	心境の変化
	商学部ホスピタリティ・マネジメント学科1年	グルン クシ	ネパール	日本で学んだこと
	外国語学部英米学科3年	ネイ ゲンネイ	中国	花火
	商学部ホスピタリティ・マネジメント学科3年	グエン トゥ チャン	ベトナム	日本語の勉強を選んだ理由
	商学部商学科2年	クツダイ アイレイ	中国	私のための留学
	商学部商学科4年	ツァイ シンユン	台湾	日本で再発見
オーディエンス賞	外国語学部東アジア学科4年	キム スミン	韓国	きっかけ、そして 今

## 台湾・東海大学学生交流訪問団の来学

令和6年6月末から2週間、本学外国語学部東アジア学科において台湾・東海大学文学院から派遣された学生交流訪問団を受入れました。これは、令和6年3月に外国語学部が東海大学文学院と学生交流協定を締結したことを受け、交流の活性化の一環として、東海大学文学院の中国語専攻の学生3名が海外での中国語教育の実践の機会として本学を訪問し実施されたものです。

中国語関連科目への授業参加を中心に、日本人学生と台湾の学生の交流の場が設けられました。東アジア学科の学生にとっては、授業や授業以外での彼らとの交流の時間を通じて、学んだ中国語を使うことができ、異文化理解を深める貴重な機会となりました。



## 台湾研修団を派遣しました

令和6年度は9月1日～8日までの8日間台湾へ台湾研修団を派遣しました。これは、台湾や台湾社会への理解を深めることを目的として体験型海外研修プログラムとして新設したものです。全学部生を対象として募集し、8名の学生が参加しました。

プログラムは事前研修と現地研修とで成り、派遣前には台湾に関する各テーマに沿った事前指導を受け、また現地学生との交流に向けて熊本や熊本学園大学を紹介するプレゼン資料を派遣者全員で準備するなど、事前学習にも力を入れました。現地では、本学の交流協定校である台湾の国立高雄科技大学を訪問し、学生交流を行うとともに、高雄を拠点に台湾各都市をめぐるしました。

現地の学生たちとの交流では、討論や共同作業を通じて考え方の違いを知ることができ、彼らの交流への意欲や温かいホスピタリティー精神に刺激を受けました。各都市（高雄、台南、新竹、台北）への訪問を通して、学生たちは、台湾社会の現状やビジネスにおける課題について見聞きし、日台間の歴史や文化的な違いについて体験することができました。



## 中国・北京出張報告

日程：令和6年7月7日（日）～7月14日（日）

訪問校：北京語言大学、北京外国語大学、北京第二外国語学院ほか

今回の国際フォーラムは北京語言大学が世界各国の協定校の関係者を招き、協定校との協力関係を築くこと及び留学生招致活動を推進するために開催されました。今回は、語言大の国際フォーラムへの参加を機に、北京にある3つの協定校を訪問し、現地の様子を詳しく調査し、受入れ担当者との連絡体制を確認することを主な目的として北京を訪問しました。

本学は、北京語言大学および北京外国語大学と1999（平成11）年に協定を締結し、これまで主に学生派遣を行ってきました。しかし近年は中国への交換留学希望者が減少し、現地担当者との連絡も途絶えつつある状況でした。今回、直接受入れ担当の先生方とお会いし、プログラム内容の確認や施設を見学することで、安心して語言大に学生を派遣できると感じました。

また、北京第二外国語学院は、2005（平成17）年に協定を結んでから、交換留学生の相互派遣が比較的活発に行われてきました。本学ではこれまでに17名の交換学生を受入れ、13名を派遣しています。今回、学部長楊玲先生をはじめとする日本語学部の先生方を表敬訪問させていただき、本学との交流に関する協議の時間を設けていただきました。二外との交流は、交換留学生の往来のほかオンライン交流も続いているので、これから新しい交流についても検討を重ね、発展させていけると感じています。

北京訪問は、2009（平成21）年以来でしたが、二外を訪問するのは学生だった2003（平成15）年以来の20年ぶりでした。当時は、北京市の中心地からキャンパスのあるエリアまでは地下鉄がなく、最後の駅からは小型バスに乗って行かなければならず、「郊外」という印象でした。今では、キャンパスの北門と南門のどちらにも地下鉄が通っており、高層ビルが立ち並び、もはや二外のエリアは郊外ではなくなっていました。新しいビルが建ち、思い出のキャンパスからやや変わった部分もありましたが、かつて自分が留学生として通った教室棟や学生宿舎は変わっておらず、とても懐かしく思いました。

今回の出張では、中国の通信環境やスマホ決済の問題など、現地に行ってみるとうまくいかないこともあり、訪問先でお会いした先生方や、派遣中の学生に助けをもらい、何とか対処することができました。中国はこれまで何度も往来してきましたが、数年行っていないと変わってしまっていることも多いと感じました。今後、学生を派遣するにあたっては、日本とは異なる社会システムについてきちんと説明し、通信環境や決済システムといった生活必需装備をどう整えるかを伝え、不安なく現地で生活するイメージを持ってもらうことが重要だと改めて気づかされました。出張を通して、普段は派遣指導を行う立場でありながら、現地では派遣中の学生に助けられることが多かったと思います。改めて初心に立ち返り、常に新しい情報を収集する努力を怠らず、学生に丁寧に伝えていくとともに、思い通りに行かない状況や予想外のトラブルに遭遇した際の対処法や対応力を私自身もさらに磨き、学生にもその重要性を伝えていければと思います。（北原かおり）



北京語言大学国際フォーラムの開幕式



北京第二外国語学院日本語学部の先生方との交流



北京外国語大学にて  
受入担当の邵金榮先生と

## アメリカ・モンタナ出張報告

令和6年9月8日（日）から13日（金）まで、国際交流委員長とともにモンタナ大学、キャロル大学、モンタナ州立大学を訪問しました。訪問の目的は、短期・長期交換留学プログラムの可能性を協議し、各大学との交流をより強化することでした。

モンタナ大学（ミズーラ）では、短期研修団や語学学校プログラムの受け入れ可能性について協議しました。キャロル大学（ヘレナ）では、ブリッジプログラムなど、留学に挑戦しやすい仕組みづくりについて意見交換を行いました。モンタナ州立大学（ボーズマン）では、起業やビジネスに関心のある学生を対象とした短期研修や学生交換プログラムについて協議しました。また、KGU Info Sessionとしてモンタナ州立大学の学生を対象に熊本学園大学のプレゼンを行いました。初めて英語でプレゼンを行いましたが、学生たちが本学に興味を持ってくれた様子が見られ、とても良い経験になりました。

我々が訪問した9月は"smoky season"と言われ、山火事の影響で空が少し曇っていましたが、モンタナは比較的治安が良く、自然豊かな環境は学生生活に適しており、熊本に似た親近感も感じられました。また、英語学習に取り組むには非常に良い環境だとも感じました。

今回の訪問の成果として、各大学の現地担当者に直接会って話をする機会を持たただけでなく、大学の施設や寮、そして街の様子を直に見ることができた点が挙げられます。この訪問を通じて、3校との更なる交流強化に向けた具体的な一歩を踏み出しました。（入江美里）



## 英語で話そう！ CHIT-CHAT開催中

令和6年度、新たな取り組みとして、国際交流委員会主催の全編英語イベント「CHIT-CHAT」を開始しました。CHIT-CHATは、学生が英語に触れる機会を増やし、英語力の向上を目指す目的で開催されています。イベント名は英語で「世間話」や「雑談」を意味する"chit-chat"から名付けられ、スチューデント commons に集まり、リラックスした雰囲気の中で英語を話す場としてスタートしました。

今年度は全5回を実施し、各回で異なるゲストスピーカーを招待しました。テーマに沿った英語でのプレゼンテーションやディスカッション、ゲームなどを行い、参加者たちは自然な形で英語に触れることができました。テーマとしては、「カナダを知ろう」「モンタナについて」「アメリカの弁護士の1日」「イギリスの音楽」「ア蘇くまもと空港について」などがあり、どの回でも多様な文化や価値観に触れる機会となりました。参加者からは、「8割くらい聞き取れたが、話すとなると戸惑ってしまい、自分の課題が見えた」や「普段、学内で英語を話す機会がほとんどないので、新鮮で楽しかった」といった感想が寄せられています。こうした声からも、参加者が英語に対する興味を深めたり、学習への意欲を高めるきっかけとなっている様子が伺えます。

今後も、参加者の興味を引き出すテーマや活動内容を工夫し、さらに多くの皆さんが参加できるイベントに成長させていきたいと考えています。



## 深圳大学滞在手記

商学部教授 喬晋建きょうしんけん

【令和6年3月～令和7年2月 交換教員として中国・深圳大学へ派遣】

深圳大学滞在中の感想はたくさんありますが、ネガティブな話は避けるべし。また紙面の制限もありますので、生活面の1点だけを伝えます。

与えられた宿舎はキャンパス内にある2LDKの部屋で、寝具、家具、家電などもそろっており、単身赴任の私にとっては申し分のない好条件です。キャンパス内の食堂はいくつもあり、その1つは私の宿舎から約80メートルと非常に近いです。食堂の中に十数個の小さなカウンターがあってそれぞれ異なる風味や種類（鍋、鉄板、餃子、麺、パスタ、ピーフン、おかずとご飯など）の料理が提供されています。私はグルメではないので、この多種多様な料理に非常に満足していて一日三食はほぼ完全にこの食堂に頼っています。また深圳に来てから時間的なゆとりができていたため、バスケットボール（1回約60円）と水泳の学内施設（1回約200円）を頻繁に利用しており、シュートのみ一人バスケもかなり楽しいものですが、広々の50メートル10レーンの室外プールは特に気持ちよく泳げます（利用期間は4月末から11月末まで）。

中国国内でのキャッシュレスが極端に進んでいると事前にわかっていましたが、中国に来てから非常に感心してよく利用しているのはネットショッピングとネット予約タクシーです。この2つは日本にもありますが、中国の人件費が若干安いことに加えて、（電動自転車などの交通手段に対する）道路交通規制と（ネット取引プラットフォームの決済システムに対する）金融規制と（ネット予約タクシーの参入に対する）業界内競争規制は日本と比べられないほど緩いものであるために、その発達状況も日本と比べられないほど便利なものになっています。

まずネットショッピングの大手ウェブサイトは複数あり、（果物やお菓子も含めて）全国各地の商品を選べることができ、値段は近くのローソンや個人スーパーの半額以下です。商品の品質は安かろう悪かろう、送料ありも送料なしもありますが、ライター2個を約60円で注文して数百キロメートルも離れている町から無料で届けてくれた時に異様な驚きを覚え、中国の物流システムの謎は一層深まりました。またネット予約タクシーの台数はかなり多く、空港や駅だけでなく、街の中心部でも遠く離れている郊外でも簡単に呼ぶことができ、しかもその料金は正規タクシーより3割以上安いです。車の種類や車内空間や清潔度などには当たりと外れがありますが、私はいつもありがたく利用しています。こうして、買い物も外出もスマートフォン1台だけで間に合っています。深圳に来るまでスマートフォンさえ持っていなかった私にとって、（錯覚ではないといいますが）未来時代に生きる力が飛躍的に向上したと自信満々に思っています。

本来の学内教育業務から1年間も離れて深圳大学に来ることが可能になったのはたくさんの人々のおかげさまで。特に業務負担が余計に増えた商学部の同僚たち、深圳大学管理学院の冯建民先生、本学国際教育課の北原かおりさん、深圳大学外事処の黄慧さんに対して、この場を借りて感謝の意を深く表します。



屋上バスケットボール練習場にて

# My haven: Kumamoto Gakuen University!

ちよん すんよん

大田大学校 鄭丞然

【令和6年3月～令和7年2月 韓国・交換教員】

안녕하세요. 저는 한국의 대전대학교에서 온 정승연입니다 저는 2024년 3월부터 2025년 2월까지 Kumamoto Gakuen University에서 교환교수로 일했습니다. 지금도 작년 3월에 처음 교정에 와서 맑은 햇살아래 사진을 찍었던 그때의 봄향기와 따스함이 느껴집니다.

제가 구마모토에 와서 처음 느낀 감정은 "친절함과 배려"입니다. 과장님 이하 국제교류팀 스텝분들은 너무나도 친절하게 제가 구마모토에 잘 적응할 수 있도록 최선을 다해 도와 주셨고

저는 지금도 그분들의 친절함과 배려심을 잊을수가 없습니다. 제가 연구실에 밤늦게까지 남아서 일을 할 때도 저를 위해서 항상 복도불을 켜주시고 제가 새벽에 학교를 나올때도 항상

수위실에서 저에게 인사를 해 주셨던 수위분들에게도 정말 그 따듯함과 배려에 감사드립니다. 학교 스텝뿐 아니라 구마모토 시민들이나 제가 오고 가면서 만났던 많은 일본분들이 정말로 친절하였고 그 친절함과 배려심이 제가 타국에 살면서도 안전하게 마음편하게 지낼수 있게 해 주었던 원동력이었던 것 같습니다

두 번째 제가 감탄한 것은 "전통에 대한 존중"입니다. 저는 대학생들이 졸업할 때 기모노를 입는 것을 보고 매우 놀랐습니다. 한국에서는 아주 특수한 경우가 아니면 한복을 거의 입지 않습니다. 특히 젊은 학생들은 더욱 한복에 대한 사랑이나 존중이 없습니다. 예전에는 명절때는 그래도 한복을 입었는데 지금은 명절때도 거의 입지 않고 결혼식이 젊은이들이 그나마 한복을 입는 유일한 경우라고 할 수 있습니다 그런데 일본에서는 젊은 대학생들이 졸업식 때 전부 기모노를 입는 걸 보고 일본인들의 "전통에 대한 사랑과 존중" 이 정말 부러웠습니다. 이런 부러움은 여름에 있었던 거리행진 페스티벌에서 절정을 이뤘는데 전문가 집단이 아니라 평범한 시민들이 다양한 종류의 기모노나 무사옷 혹은 옛날옷들을 입고 행진하면서 일본의 옛날 가락에 어울려 일본춤을 추고 함께 하는 것이 정말 부러웠습니다.

세 번째로 제가 감탄한 일은 제 한국어 수업을 들었던 직원분들의 "성실함"입니다. 사실 퇴근후 한국어를 배우러 매주 결석하지 않고 오는 것이 정말 힘든일 인데 결석도 잘 안하시고 열심히 한국어를 배우러 오시는 직원분들의 진지함과 성실함에 저도 정말 흥이 나서 수업을

했던 기억이 납니다. 사실 아무런 의무감이 없는 수업이었는데도 수업시간에 너무나도 참여를 잘해주시고 열심히 해주셔서 그분들의 성실성과 열정에 정말 감사 드립니다.

잠시의 인연을 가볍게 여기지 않고 정말 성실하고 진지하게 관계를 맺어가는 많은 교수분들과 직원분들의 진정성에 많은 감명을 받으면서 이제 교환 교수일을 마무리하고 있습니다.

1년동안 제가 다녔던 골목길과 학교 캠퍼스 구석자리들, 그리고 함께 했던 모든 일본분들과의 인연을 소중히 간직하며 저도 한국에 돌아가서도 계속 잊지않고 관계를 꽃피어 나갈 것을 다짐해 봅니다. 그동안 정말로 감사했습니다. "ありがとうございました"

Hello, I am Jeong Seung Yeon from Daejeon University in Korea. I have worked as an exchange professor at Kumamoto Gakuen University from March 2024 to February 2025. Even now, I can still feel the spring scent and warmth I experienced when I took a photo under the bright sunlight after visiting the campus for the first time last March.

The first emotion I felt when I came to Kumamoto was "kindness and deep consideration." The department head and the staff of the Office of International Education were incredibly kind and did their utmost to help me adjust to life in Kumamoto. I will never forget their kindness and thoughtfulness. Not only they but also all the other university staff have been very generous and considerate toward me. Even when I worked late in the office, the security guard would always turn on the hallway lights for me, and when I left the university after 2 a.m., the security guards would always greet me even so late at night. I am truly grateful for their warmth and consideration. Not only the university staff, but also the citizens of Kumamoto and the many Japanese people I encountered during my time here, were all very kind. I believe this kindness and consideration were the driving forces that allowed me to feel safe and at ease while living in a foreign country.

The second thing that impressed me was the "respect for tradition." I was very surprised to see university students wearing kimonos at their graduation ceremonies. In Korea, we rarely wear traditional clothing like Hanbok unless it is for a very special occasion. Young students, in particular, do not have much love or respect for Hanbok. In the past, we would wear Hanbok during traditional holidays, but now, even on holidays, it is rare to see, and the only occasion when young people typically wear hanbok is at their weddings. However, in Japan, I was impressed to see young university students wearing Kimonos for their graduation, which showed their deep love and respect for tradition. This admiration reached its peak during the summer street parade festival, where ordinary citizens, not professionals, wore various types of Yukata, samurai attire, or traditional clothes and paraded while dancing to the traditional music of Kumamoto. I deeply admired their respect for tradition.

The third thing that impressed me was the "diligence" of the staff members who attended my Korean language class. In fact, it is quite difficult to attend a language class without missing a single session after work, but the staff members would show up almost every week and study Korean with great seriousness and dedication. Their earnestness and diligence truly motivated me, and I had a lot of fun teaching them. Even though the class was not mandatory, they participated so enthusiastically and worked so hard that I was deeply moved by their sincerity and passion.

As I wrap up my time as an exchange professor, I am deeply impressed by the sincerity of the many professors and staff who did not take our brief encounter lightly but instead worked hard to build genuine and meaningful relationships.

I will cherish the memories of the alleyways I walked through, the corners of the campus where I spent time, and all the connections I made with the Japanese people during my year here. As I return to Korea, I promise to keep these memories alive and continue to nurture these relationships. I sincerely thank you for everything during my time here.

"ありがとうございました"



教職員向け韓国語講座にて  
(筆者前列右から3番目)

## ホームステイ先での経験

商学部ホスピタリティ・マネジメント学科4年

たのうえ あいこ  
田上 愛子

【令和6年2月3日～2月27日 短期認定プログラムに参加】

令和5年度短期認定留学でハワイ大学へ派遣され、ホストファミリーと一緒に過ごした時間は、キャンパスでの授業よりも思い出深い経験になりました。私のホームステイ先は、お母さんと小学生の娘さんの2人暮らしの家庭でした。最初は、簡単な会話でも間違えることが怖くて、スマートフォンの翻訳アプリがないと不安で積極的に会話することができませんでした。それでも何度もゆっくりと伝わるように話しかけてくれて、娘さんと一緒にヘアアレンジをしたり、折り紙をしたり、3人で料理をしていく中で、こんなに歩み寄ってくれているのに、私はスマートフォンに頼ってばかりでもったいないし失礼だと反省しました。そこから、できるだけリビングで過ごし、自分から話題を出したり、毎日夕食時に、1日の出来事や明日の予定を共有することが家族の日課だったので、それまでに自分の言葉で伝えられるように分からない単語や言いたいことを予習していました。そのおかげでもっと仲良くなれたし、様々な英語の表現を学ぶことができました。帰国した後も、メッセージを送り合う交流が続いていて、また2人に会いにハワイに行けるよう頑張ることが私の今後の目標です。



ハワイの家庭料理「ふりかけサーモン」を作る



ホストシスターである娘さんと（筆者右）

## 今の生活をありがたいと思うこと

経済学部リーガルエコノミクス学科2年

いしむら おうが  
石村 旺雅

【令和6年8月8日～9月2日 サマープログラムに参加】

私は、すぐに物事を信じ込んでしまう人間になっていたように思います。

私はサマープログラムの期間中、出国前に事前購入できるブリットレイルパス(鉄道乗り放題パス)を利用せず、休日を利用しスコットランドのエディンバラに鉄道で観光に行くこととなりました。出発の数日前に電車を予約することとなり往復分の席指定の乗車券をWeb購入し電車へ乗り込みました。乗り込んでみると自分の指定されているはずの席にほかの旅行客が座っていました。私が「席指定されていますか？」と尋ねるとその方も席を指定されていて、予約確定の書類を持っておられました。電車予約アプリで、普通の乗車券に料金を追加して指定席券を買っていたのですが、ここで予約が確実なものにならないときもあるのだと日本との違いを感じました。イギリスの鉄道のことをよくよく調べてみるとファーストクラス以外は、路線によっては全席自由席という事が分かりました。その後は、空いている席に座りなんとか目的地のエディンバラに着くことができました。

日本では予約という「絶対」というイメージがあったので大変驚かされました。それと同時に日本は本当に生活しやすいのだとも感じる事となりました。また今回は少額の損で済んで本当に良かったと思いました。「広い視野を持ち全体を捉え、それから細かいところを見ていく」という当たり前ともいえることが、気がついたら前のめりで過ごしていた自分にはできていなかったのだと気づかされました。



エディンバラにて（筆者右）



ロンドン トラファルガー広場にて

## 台湾研修

外国語学部英米学科1年 <sup>しほさき</sup>潮崎 <sup>きゆり</sup>小百合  
 【令和6年9月1日～9月8日 台湾研修団に参加】

私は9月1日から8日の8日間で行われた台湾研修に参加しました。

前半4日間は高雄の国立高雄科技大学の学生とともに行動をし、高雄市政府を訪れ熊本と台湾、高雄のつながりについて学び、台湾の歴史を学ぶことができる博物館や地域を訪れました。高雄での4日間では学生たちと最後には手紙を渡し合うほどの仲にまでなることができました。

後半4日間のうち1日は自由行動だったのでジブリで有名な九份やパワースポットとして有名な龍山寺にも行くことができました。そして、別日には世界最大級の台湾セミコンやTSMCミュージアムで半導体について学び、台湾総督府や歴史博物館、肥後銀行台北駐在員事務所を訪れました。

今回の研修で私は国境を越えた素敵な友人が何人もでき、様々な場所を訪れ台湾について深い学びを得ることができました。本当に充実した8日間だったなと感じます。また必ず台湾を訪れたいです。



九份の海悦樓の夜景



台湾研修団のみんなと（筆者 右から2番目）

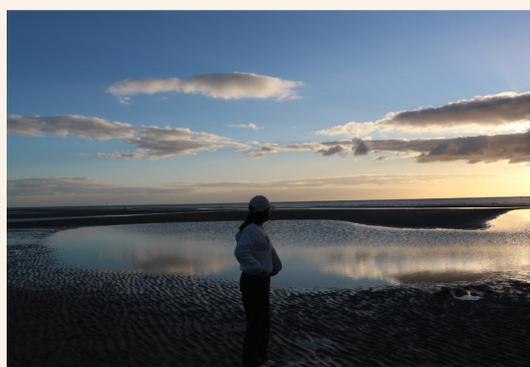
## 留学生活を通じて得た貴重な経験と成長

商学部商学科3年 <sup>むらかみ</sup>村上 <sup>ゆうか</sup>裕香  
 【令和6年9月～令和7年4月  
 英国・セントラル・ランカシャー大学へ交換留学】

イギリスに留学して以来、語学学習をはじめ、様々な経験を通じて多くの知識を得ることができました。最初は、ネイティブスピーカーの速さについていけず、自分の思いをうまく伝えられないことに落ち込むこともありましたが、今では英語の楽しさや学びの奥深さを実感しています。授業内容は完全に理解できるようになりました。一方、日常会話は依然として難しさを感じますが、以前よりも理解力が向上し、着実に成長を感じています。また、日常的に正しい発音を耳にする機会が多いことは非常に魅力的です。授業や日常会話で実践的な発音を学びとることで、より実用的な英語を身につけることができている。さらに、バレーボール部に所属し、スポーツを通して心身ともにリフレッシュしながら、現地の学生や他の留学生と深い交流を築くことができ、留学生活が一層充実しています。また、困ったときには助けてくれる友人にも恵まれ、共に切磋琢磨しながら日々を過ごしています。日本を離れ、初めての一人暮らしを経験する中で、時にはネガティブな気持ちになることもありますが、この貴重な環境で学ぶことに感謝し、初心を忘れずに残りの留学生生活を有意義に過ごしたいと考えています。



バレーボールの試合後（筆者 二列目中央）



ブラックプールのサンセット

## 韓国留学で得たもの

経済学部経済学科3年 井本 陽南

【令和6年3月～12月 大田大学校へ交換留学】

私は韓国へ1年間留学しましたが、出発前は何度も留学をするべきか迷い、不安を感じていました。しかし、実際に留学をしてみると、韓国人はもちろん、他国からの留学生とも交流することができ、多くの素晴らしい出会いがありました。

私は経済学部に所属しており、韓国の大学では語学の授業だけでなく、専門分野の授業も受講しました。しかし、日本にはない表現や単語が多く、理解に苦しむこともあり、辛い時期を経験しました。それでも幸運なことに、同じ授業を受けていた日本人の友人がいたため、毎日一緒に勉強したり、同じ授業を取っていた韓国人にも声をかけて教えてもらったりすることで、たくさんの人に助けられながら学びを深めることができました。また、留学以前は、約束やお誘いを断ることが苦手でしたが、韓国では相手の気持ちを必要以上に気にしない文化があり、自分の意思をしっかりと主張しなければ流れに飲み込まれてしまうということを学びました。その経験を通じて、次第に自分の意見を明確に伝えられるようになったと感じています。

留学を通じて得られた経験はかけがえのないものばかりで、留学をして本当によかったと心から思っています。



トーキングクラブで出会った韓国人の友人と旅行  
(筆者 1番左)



トーキングクラブで出会った韓国人の友人と  
(筆者 右から2番目)

## 大きく成長できた1年間

外国語学部東アジア学科2年 水本 咲

【令和6年2月～令和7年1月 北京第二外国語学院へ交換留学】

中国に来た当初は不安もありましたが、文化や言語の違いを怖いと捉えるのではなく、逆に面白いと思っていたので生活の中でのギャップの差に辛さを感じたことは少なかったです。

留学で学んだことはとりあえず何事にも挑戦し、失敗を怖がらないことです。授業は発言やプレゼンの機会が多く、最初は間違えることが怖くて上手くいかず、周りとの差を感じていました。しかし、担任の先生から「留学が終わって本当にレベルが上がったといえるのは、喋れるようになることだ」といわれ、その後からプレゼンやスピーキングテストでは授業で覚えた単語や文法を使ってできるだけ沢山話すことを意識しました。そのおかげで、中国人の友達やクラスメイトとの交流が増えました。私のクラスは20人で韓国、フランス、イギリス、ロシア、コスタリカ、メキシコ、キルギス、ケニア、マダガスカル、カメルーン、オランダから来た留学生と一緒にだったので会話の中で新しく得る知識が多く面白かったです。

休日は中国人の友達や仲良くなったクラスメイトと旅行や北京の観光地をまわったり、大学の外にご食事に行ったりなど充実した時間を過ごすことができました。また、一人で買い物に行くことも多く、授業で習ったことを使ってどこまで今の自分の中国語力が通用するのか試すことがとても面白く語学能力向上にもつながりました。

最後に、留学は私の人生にとって大きな分岐点となり留学中にできた友達は一生の宝になりました。留学を通して、偏見ばかりを持つのではなく、色々な考え方を学び活かしていくことを改めて実感しました。留学が私の最終地点ではないのでこれからも努力し続けていきたいです。



ユニバーサル北京にて



私の誕生日に (筆者 前列左)

## 熊本での340日

チェ ジワン

外国語学部東アジア学科4年 崔智琬

【令和6年4月～令和7年3月 韓国・大田大学校からの交換留学生】

こんにちは。韓国の大田大学校から来たチェ・ジワンと申します。留学に来た先輩・後輩たちが国際交流レターを作成しているのを見て、私も一度書いてみたいと思っていました。意外にも私に機会をくださって作成できるようになりました。ありがとうございます。

初めて熊本に来た時は本当に不慣れで不思議でした。以前、熊本に旅行に来たことがありますが、旅行と生活の違いをはっきりと感ずることができました。口座や電話番号開設などいろいろ大変でしたが、国際教育課の先生方の細心なサポートで特に問題なく解決することができました。韓国でハンゲルを読んで韓国語で話して生きてきた私にとって買い物もまた難関だったと思います。韓国語の名前は分かるのですが、日本で何と呼ばれているのか分からないとか、韓国では手軽に手に入れることができたものがここでは売っていない等のことがありました。例えば醤油がそうです。ウマクチ、アマクチ、ウスクチなどです。何か違うのは確かで、韓国でも使い分けますが、どれがどんなものなのか分からなかったので、たくさん迷った覚えがあります。今では慣れて必要なものをどんどん買うことができましたが、いまだにその時を思い出すと笑いが出ます。

私はここで初めてバイトもしてみました。韓国でもやったことのないバイトだったので、果たしてうまくできるのか、日本語でうまくコミュニケーションできるのか、いろいろ悩みました。しかし、せっかく日本に来て新しい経験をしてみたかったので挑戦し、今でもとても良い選択だと思います。

ここに来て過ごした時間をゆっくりと思い出してみると、本当に楽しく不思議で、時には怒って、大変で、やりがいがあり、自分が成長したと感ずられる、色々な記憶がいっぱい浮かびます。留学生生活を一枚の絵にあらわすなら、とても多様な色が多様な形で入った抽象画のようだと思います。一筆一筆描く時はまだ分からなかったものが、完成すればとても美しい作品になる抽象画です。最も美しく楽しい時期を熊本で過ごせて光栄でした。私たちの生活全般をサポートしてくださった国際教育課の方々、寮の管理の方々、多くの教授、レジデント・アシスタントの皆さん、また多すぎてここに書くことはできませんが、数多くの感謝したい方々に伝える感謝の言葉を最後に、国際交流レターを終えようと思います。いつかぜひまたお会いできればと思います。ありがとうございました。



夏の熊本城（筆者左）



留学生バスハイイクで阿蘇へ

## ここに来てよかった！

クツダイ アイレイ

商学部商学科2年 堀内 愛麗

【令和6年4月～令和7年3月 中国・北京第二外国语学院からの交換留学生】

一言で自分の2024(令和6)年はどのような感じだったかと言えば、「新しい」である。なぜ「新しい」と思うのか、熊本学園大学に留学して、たくさん体験し、いい思い出を作ってきて、「新しい」自分になったからだ。

2024(令和6)年の春、緊張と興奮を持って、留学の旅が始まった。最初は誰も知らず、初めての外国で一人で生活したり勉強したりすることをとっても心配していた。しかし、熊本学園大学では、留学生交流会やホームステイのイベント、ピクニックなど留学生をサポートしているイベントを開催していた。そこで、私はたくさんのイベントに参加させてもらい、次々と日本人の友達ができ、熊本の魅力を感じていった。

熊本に来てから、多くの人と出会い、今まで体験したことがないことをし、行ったことがない場所へ行き、新しい思い出を作り、自分の留学生活は徐々に充実していった。例えば、熊本市内だけでなく、熊本県内の街を旅しながら、自然と文化を体験したり、大学では弓道部に入り、日本の本場の文化を学んだり体験して、新しい技能を身につけ知識を広げることができた。

最初は文化の違いがあり、わからないことだらけで、行き詰まる事が多かったが、少しずつ理解できて、今では日本の生活が慣れてきた。以前の私はいつも自信がなくて、考えすぎることも多かった。自分の目標など全然分からずに悩みながら生きていたが、2024(令和6)年熊本学園大学に留学し、少しずつ成長し、将来の目標を持つことができた。今は以前の私と違って、新しい自分になったと思う。本当にここに来てよかった、ここでの思い出はたぶん人生の中で鮮やかな色になるだろう。



おてもやん総踊り（筆者左から2番目）



留学生ハイキングで阿蘇へ

## 留学体験記

外国語学部英米学科 3年 寧彦寧 ねい げん ねい

【令和5年9月～令和6年8月 中国・相思湖学院からの交換留学生】

日本で学んだ経験は忘れられない時間であり、それは私の知識を豊かにしただけでなく、視野を広げ、日本の文化、社会、生活様式に対してもっと深い理解を持たせました。

初めて日本に来て、私はすぐにこの町に魅力を感じました。東京や大阪のようににぎやかではありませんが、独特の趣があります。日本の深い文化の奥深さと温かい人間味を感じました。

日本の教育システムは私に深い印象を残しました。多くの新しい学術理念と研究方法に触れました。先生たちはとても優しく、日本語での交流や日本文化への理解を丁寧かつ根気よく教えてくれました。私に多くの日本語を話すように励まし、生活の中の様々な小さなことを通じてどのように日本語で表現するかを教えてくださいました。また、いろいろな場所に連れて行って研究したり、日本の食文化生活を体験したりしました。言語や文化の違いに不安を感じたときも、大学の先生、クラスメート、先輩たちは私に大きな助けをくれて、この貴重な経験をもっと大切にさせてくれました。

授業以外にも、積極的にいろいろな活動に参加しました。私は多くの人と友達になっただけではなく、日本の伝統文化を深く理解しました。学園祭にも参加し、みんなでタピオカミルクティーを作り販売したり、熊本学園大学の面白いキャンパスライフを感じたりしました。

生活面では、日本の美食は忘れられません。洗練された和食から街の軽食まで、それぞれ独特の味と文化が含まれています。寮では時々パーティーを開いたり、友達と集まって美味しいものを作ったり、ゲームをしたりすることもあります。友人とパーティーを開くことで、寿司やたこ焼きなどの日本の伝統的な料理を作り、多くの特色ある食を味わってきました。これら美食体験は私の日本生活に欠かせないものになりました。

熊本学園大学で学んだ経験を振り返ると、多くの収穫を感じます。私は専門知識を学んだだけでなく、どのように独立して生活し、どのように人と付き合うかを学びました。私の人生の旅の中で貴重な宝物になりました。



会館のみんなとたこ焼きパーティー



友人と誕生日パーティー（筆者 前列左）

## 熊本学園大学の留学のおかげ

経済学部経済学科 3年 NGUYEN THU TRANG くえん とう ちゃん

【令和6年4月～令和7年3月  
ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校からの交換留学生】

2024(令和6)年3月、私は初めて親元を離れ、一人で交換留学生として日本に来ました。日本に来る前は、「自分が一人で生活できるだろうか?」「日本の生活に慣れることができるだろうか?」「外国の人々はどのような人たちなのだろうか?」といった不安が頭をよぎっていました。

しかし、日本に足を踏み入れた瞬間、実際の日本は自分がこれまで抱いていた印象とは全く異なることに気づきました。私が住んでいた熊本は、道が綺麗で、空が明るく、非常に快適で穏やかな雰囲気の街でした。熊本での毎日はのんびりとしており、ストレスのない幸せな時間を過ごすことができました。

また、熊本での留学生活を通じて、日本人についての印象も大きく変わりました。私が出会った日本の方々は、想像以上に優しく、いつも親切に助けてくれました。彼らとの交流を通して、私は多くの貴重なことを学ぶことができました。さらに、留学をきっかけに、他の国から来た留学生とも知り合い、異文化交流を深めることができました。彼らのおかげで、私の留学生活は決して寂しいものではなく、とても楽しいものとなりました。

1年間という留学期間は短いものでしたが、その間に日本のさまざまな文化を体験し、多くの優しい人々と出会い、自分自身の視野を大きく広げることができました。この経験は、私の人生において忘れられない思い出になりました。



子ども文化のプレゼンテーション  
(筆者右2番目)



阿蘇杵島岳（筆者前列左2番目）

## 二ヶ月の日本生活

外国語学部英米学科4年

黄建凱

【令和6年9月～令和7年5月 台湾・国立高雄科技大学からの交換留学生】

熊本に来る前、とてもワクワクしていたのを覚えています。なぜなら、私はこれまで一度も海外に行ったことがなく、初めての渡航が海外留学だなんて、本当に興奮していました！到着後、最初に出会ったのは、私を寮まで送ってくれた国際教育課の北原さんでした。寮への道中、いろいろ話をし、驚いたことに私は自分の大学から初めて熊本学園大学に来た男性の交換留学生だと聞きました！つまり、この日9月4日から、私の日本での留学生活が正式に始まったのです！

国際教育課や寮の皆さんの助けを借りて、私はだんだん学校や寮の生活に慣れていきました。寮の皆さんもとても優しく、本当に幸運だと思っています！

9月8日、私は日本で初めて映画を観ました。その映画は「Re:ゼロから始める異世界生活」の劇場版でした。観終わった後、とても感動しました。なぜなら、この作品こそが私が日本語を学び始めたきっかけだからです。まさか今、私がここにいるなんて思いもしませんでした。その時は感動しすぎて涙が出てしまいました。また、寮でできた良い友達、なおにも感謝しています。彼はその日も私にいろいろ手助けしてくれましたし、たくさん面白いことがありました！

9月13日から9月15日まで、私はホストファミリーと過ごしました！3日間、本当に楽しかったです。ホストファミリーの皆さんとたくさん話して、日本の家庭生活も体験できて、とても幸せでした！

10月12日、私は人生で初めての登山を杵島岳でしました！登山の途中は決して楽ではありませんでしたが、山頂に着いた時はその努力が報われた気がしました。その後、市場を散策し、温泉にも浸かりましたが、足湯だけでした。とても疲れたけれど、すごく楽しい一日でした！

10月20日、ホストファミリーと一緒に熊本北高の文化祭に行きました！人生で初めて「日本の高校の文化祭」を見ました！本当に日本の高校生はすごいなと思いました。まさに青春そのものの雰囲気でしたね～。

11月1日から11月4日まで、私たちの大学の文化祭「託麻祭」がありました。たくさんのパフォーマンスを観ることができ、留学生や国際教育課の皆さんと一緒にタピオカミルクティーを販売しました。最終日の夜には花火も見れて、幸せな気持ちでいっぱいでした…。



杵島岳にて



北原さんと（筆者左）

## レジデント・アシスタント体験記

### レジデント・アシスタントを通して

商学部ホスピタリティ・マネジメント学科1年

外口 翔南子

【令和6年3月～令和7年2月 レジデント・アシスタント】

私は約1年間、日本人サポーターのレジデント・アシスタントとして留学生と一緒に共同生活をしました。もともと外国人と話すことや交流することが好きで、大学で行われる国際交流にも入学当初から興味を持っていました。そのため、レジデント・アシスタントについて知った時は迷わず応募しました。実際に留学生と一緒に過ごした日々は、私にとって、とても充実した日々になりました。寮に帰ると、「ただいま」と「おかえり」を言い合い、そこから今日どんなことがあったのか、今日のご飯は何を食べるのか、最近どんなことがあったのか、困っていることはないか等色々な話をします。留学生に分からなかった日本語を教えると、留学生は理解するとともに後日その日本語を上手に使っていました。それを聞いた時、驚きと共に私自身もすごく嬉しかったです。時には、遅くまで夜食を食べながら話をしたり、またみんなでパーティーをしたり、誕生日にはケーキを準備してお祝いしたり、ご飯を食べに行ったりと、とても楽しい思い出ばかりです。また一緒に暮らしていく中で、相手の文化や言語について教えてもらったりもしました。普段では、経験することができない国際交流をレジデント・アシスタントを通して貴重な経験をすることが出来ました。そして、留学生と暮らす中で、留学生から貰った学びも多くありました。それは、何にでも挑戦することです。留学自体もそうですが、覚えた日本語をすぐに使ってみたり、気になった所に実際に足を運んでみたり、なんでも挑戦する心が大切だと学びました。留学生と過ごした日々は大切な思い出になったとともに、ここで学んだことをこれからに活かしていこうと思います。



留学生とカラオケに行った帰り道で（筆者前列右）



国際交流会館キッチンにて（筆者前列左）

## 初めての大学生活

ぐるん くし

商学部ホスピタリティ・マネジメント学科1年 GURUNG KHUSI  
【令和6年度入学 出身校春暉国際学院（福岡）】

私は商学部ホスピタリティマネジメント学科1年生のクシです。ネパールからの留学生です。2022(令和4)年に日本に来ました。1年半日本語を勉強して熊本学園大学に入学しました。大学に入ったばかりの時の思い出したら今も緊張します。時間割の組み方もわからないし、授業もぜんぜんわからないしとても困りましたが国際教育課の先生たちが助けてくれました。学生生活が始まって、私たちは熊本市動植物園にピクニックに行きました。それは他の交換留学生と一緒に出かけた初めての経験でした。他には「火の国まつり」は今までの最も忘れられない経験でした。私はいつも日本のお祭りを見ていましたが、見ている人の一部になったことはありましたが、初めて日本のお祭りに参加し、踊ったりして、とても楽しみました。それはすべて国際教育課のおかげで可能になりました。今は大学生活を楽しむことができ国際教育の先生たちにありがとうございます。家族から離れてさびしいですが友達や国際教育課の先生たちがいて今は大分なれてきました。今年も皆で大学生活楽しんでいきたいと思っています。



火の国まつりにて（筆者左）



## 安心の気持ち

ぶん だや

商学部ホスピタリティ・マネジメント学科1年 PUN DAYA  
【令和6年度入学 出身校春暉国際学院（福岡）】

勉強はどうですか？体調は大丈夫ですか、体調が悪かったら言ってね、病院に連れて行くから。毎日ちゃんとご飯を食べている？電話がかかってきて、今地震があったよー、大丈夫ですか？何かあったら教えてね、と国際教育課の先生方から聞いている愛情の言葉です。こんな暖かい言葉を聞くと家族から離れていても家族のような先生方がいるので大安心です。大学に入ったばかりの時わからないことが多く、何回も国際教育課の先生にサポートして頂きました。さらに、国際教育課から案内があった色々なイベントやプログラムに行ったおかげで、日本人だけでなく、他の国の人と出会って、仲良くすることができました。また、大学から日本のお祭りにも参加でき、日本文化を学ぶだけでなく、楽しむこともできました。国際教育課の先生方が何かと助けてくださり、色々なイベントを案内してくださり、色々なことが楽しめるので、日本に来て2年半経ちましたが、とても楽しい生活をしているのは大学に入ったからです。大学の生活はまだ3年間あるので、この3年間に色々なことをしてたくさんの思い出を作りたいと思います。



春のピクニック動植物園にて（筆者前列左）

## 日本での2年間の旅

商学部ホスピタリティ・マネジメント学科1年 ちゃんてい ふおん たお TRAN THI PHUONG THAO  
 【令和6年度入学 出身校熊本YMCA学院（熊本）】

日本に来て2年が経ち、たくさんの思い出に残る時間があっという間に過ぎたように感じます。日本に来た当初は、日本語学校で1年半日本語を勉強していました。そのおかげで大学に合格することができました。しかし、大学に入学してからは、すべてが新しく変わります。当時の私の日本語はまだかなり下手だったので、周りの人々に溶け込むのは本当に大変でした。しかし、私はめげずに常に勉強し、自分自身を向上させようと努めています。

しばらくすると、私はここでの学習環境と生活のペースに徐々に慣れてきました。大学の先生たちはとてもフレンドリーで、私が困ったときはいつでも助けてくれます。学生たちはとても活発で社交的なので、孤独感がなくなり、頑張ろうという気持ちも高まります。

大学1年生の思い出は、8月3日、大学から留学生と一緒に熊本の夏祭りに参加したことです。日本の夏はとても暑いですが、お祭りの賑やかで陽気な雰囲気が暑さを吹き飛ばしてくれます。初めて法被を着て火の国まつりの盆踊りに参加しました。その瞬間はとても心地よくて幸せな気持ちになり、心に忘れられない思い出を残しました。

11月初旬に大学でフェスティバルが開催され、私たち留学生も一緒に参加しました。留学生チームでタピオカミルクティーを販売することにしました。私は今回初めて「営業マン」という役職に挑戦し、皆さんとグループで仕事をしました。最初は少し戸惑いましたが、とても楽しく、心に残る思い出と一緒にすることができました。

さて、大学1年生も終わろうとしています。振り返ってみると、大変なこともたくさんありましたが、楽しいこともたくさんありました。レッスン、思い出、仲間は私を大きく成長させてくれました。これは本当に美しい旅であり、私は学生生活を通じてずっと思い出でしょう。



おてもやん総踊り（筆者一番前列）



託麻祭にて（筆者右）

### PHOTO GALLERY





## 留学生カフェで築く異文化のつながり

外国語学部東アジア学科 3年

きむ すみん  
金 洙 旻

2024(令和6)年3月、熊本に来た私は「留学生カフェ」という活動に参加することを決めました。初めての海外生活で不安や戸惑いもありましたが、日本人学生との交流を通じ、多くの学びと成長を得ることができました。

留学生カフェでは、母国の文化を紹介するだけでなく、日本の文化に触れることで互いの違いを尊重し、理解を深める貴重な機会となりました。また、日本語での会話を重ねる中で自然と会話力が向上し、視野を広げることができました。

さらに、国籍や文化を越えて互いを理解し、応援し合える関係を築けたことは、何よりの収穫でした。この経験を通じて得た気づきや学びを基に、これからも多くのことに挑戦し、さらに成長していきたいと思います。



## 出会いのきっかけ

外国語学部東アジア学科 1年 よしむら あやの  
吉村 綾乃

私を感じた留学生カフェの一番の魅力は、少しの勇気で立派な国際交流が出来ることです。私は東アジア学科で学んでいる韓国語を実際に使ってみたいと思い、友達と留学生カフェに申し込みましたが、まだ1年生であることから未熟な点が多く、留学生と会話ができるか不安でした。しかし、その心配は必要なく、留学生たちは韓国語と日本語を交えながら、とてもフレンドリーに接してくれました。お互いの国の文化、SNSで見気になっていたこと、些細なことを質問し合っているうちに、仲が深まりました。熊本学園大学に来てくれている留学生たちは、それぞれ理由は違っても日本に興味がある、日本人と話してみたいと思ってくれているはずです。私はここで親しくなった留学生と交流をしながら自分も韓国へ留学することを決めました。ほんの少しでも興味がある、話してみたいと思うのなら、参加してみる価値は大いにあると思います。ぜひ、留学生と交流をしてみてください！きっと、素敵な出会いが待っています！



## 令和6(2024)年 海外往来実績

月	派遣	受入
1月	■派遣交換留学生の帰国(韓国・大田大学校[4名]、中国・深圳大学[1名])	
2月	■派遣交換留学生の出発(中国・北京第二外国語学院[1名]、韓国・大田大学校[3名]) ■短期認定留学生の出発(米国・ハワイ大学マノア校[5名]) ■派遣交換教員の出発(中国・深圳大学 喬晋建先生) ■派遣学部交換留学生の帰国(ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学[1名]) ■短期認定留学生の帰国(米国・ハワイ大学マノア校[3名]) ■外国語学部英米学科英米海外研修(米国・ベセル大学[18名])(2/17～3/12)	■受入交換留学生の帰国(米国・モンタナ州立大学[1名]、韓国・大田大学校[4名]、中国・深圳大学[2名]、北京第二外国語学院[1名]、台湾・国立高雄科技大学[2名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校[1名]) ■受入交換教員の帰国(中国・深圳大学 彭勃先生(2/24)、韓国・大田大学校 尹景兒先生(2/28))
3月	■短期認定留学生の帰国(米国・ハワイ大学マノア校[2名])	■受入交換教員の来熊(韓国・大田大学校から鄭丞然先生(3/18)) ■受入交換留学生の来熊(韓国・大田大学校[3名]、全南大学校[1名]、中国・北京第二外国語学院[1名]、台湾・国立高雄科技大学[2名])、ベトナム・国家大学ハノイ校[1名]
4月	■外国語学部英米学科長期海外研修・海外インターンシップ出発(カナダ・ビクトリア大学[5名])	
5月		
6月	■派遣交換留学生の帰国(英国・セントラル・ランカシャー大学[1名])	■台湾・東海大学学生訪問団来学[学生3名](6/30～7/14)
7月	■外国語学部東アジア学科韓国海外研修(韓国・聖公会大学校[12名])(7/30～8/20) ■外国語学部英米学科長期海外研修帰国(カナダ・ビクトリア大学[3名]) ■派遣交換留学生の帰国(韓国・大田大学校[1名])	
8月	■サマープログラム(英国・セントラル・ランカシャー大学[10名])(8/8～9/2) ■外国語学部東アジア学科中国海外研修(台湾・国立台湾師範大学[9名])(8/8～8/31) ■全南大学校 AI サマースクール(韓国・全南大学校[1名])(8/5～8/18) ■経済学部経済学科国際フィールドワーク(インドネシア・マハサラスワティ・デンパサール大学[13名])(8/26～9/6)	■受入交換留学生の帰国(中国・広西民族大学相思湖学院[1名]、台湾・国立高雄科技大学[2名]、韓国・全南大学校[1名]) ■韓国・大田大学校学生自治会訪問団来学[学生20名、引率3名](8/7～8/9) ■台湾・国立陽明交通大学学生訪問団来学[学生8名、引率1名](8/26～8/28)
9月	■派遣交換留学生の出発(英国・セントラル・ランカシャー大学[1名]) ■外国語学部英米学科長期海外研修・海外インターンシップ帰国(カナダ・ビクトリア大学[2名]) ■外国語学部英米学科長期海外研修・海外インターンシップ出発(カナダ・ビクトリア大学[3名]) ■台湾研修団(台湾・国立高雄科技大学[8名])(9/1～9/8) ■社会福祉学部海外フィールドワーク(韓国・順天郷大学校[4名])(9/8～9/11)	■受入交換留学生の来熊(台湾・崑山科技大学[1名]、国立高雄科技大学[1名]) ■崑山科技大学からの訪問者来室[4名](9/13)
10月	■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習(韓国・大田大学校等[5名])(10/27～11/17)	
11月		■中国・南開大学訪問団来学[3名、駐福岡中国総領事館1名]
12月	■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習(台湾・国立陽明交通大学[4名])(12/1～12/8) ■外国語学部英米学科長期海外研修帰国(カナダ・ビクトリア大学[2名])	■米国・モンタナ州立大学訪問団[2名] ■韓国・順天郷大学校訪問団来学[学生16名、引率2名、通訳1名](12/16～12/17)

### 令和6(2024)年度 オンライン留学サロンの実績

交流相手大学		使用言語	学期	実施回数	参加者延べ数
中国	北京第二外国語学院	中国語、日本語	秋学期	1回	10名

### 令和6(2024)年度 研修団往来

受入	研修団名	研修期間	期間	団員数
	大田中学校学生自治会訪問団	8月7日(水)～8月9日(金)	3日間	学生20名、引率3名
順天郷大学校訪問団	12月16日(月)～12月17日(火)	2日間	学生16名、引率2名、通訳1名	

派遣	研修団名	研修期間	期間	研修・派遣先	団員数
	外国語学部長期海外研修(現地実習B)	4月7日(日)～7月6日(土)	91日間	カナダ・ピクトリア大学	学生4名
外国語学部海外インターンシップB	4月7日(日)～9月2日(月)	149日間	カナダ・ピクトリア大学	学生1名	
外国語学部東ア(韓国)海外研修	7月30日(火)～8月20日(火)	22日間	韓国・聖公会大学校	学生12名、引率2名	
外国語学部東ア(台湾)海外研修	8月8日(木)～8月31日(土)	24日間	台湾・国立台湾師範大学	学生9名、引率2名	
サマープログラム	8月8日(木)～9月2日(月)	26日間	英国・セントラル・ランカシャー大学	学生10名、引率1名	
経済学部国際フィールドワーク	8月26日(月)～9月6日(金)	12日間	インドネシア・デンパサール・マハサラスワティ大学	学生13名、引率2名	
台湾研修団	9月1日(日)～9月8日(日)	8日間	台湾・国立高雄科技大学	学生8名、引率1名	
外国語学部長期海外研修(現地実習A)	9月7日(土)～12月7日(土)	91日間	カナダ・ピクトリア大学	学生2名	
外国語学部海外インターンシップA	9月7日(土)～R7 2月3日(月)	149日間	カナダ・ピクトリア大学	学生1名	
社会福祉学部海外フィールドワーク	9月8日(日)～9月11日(水)	4日間	韓国・順天郷大学校	学生4名、引率4名	
日本語教育実習(韓国コース)	10月27日(日)～11月7日(木)	12日間	韓国・大田大学校	学生4名、引率1名	
日本語教育実習(韓国コース)	11月10日(日)～11月17日(日)	8日間	韓国・韓一外国語学院	学生2名、引率1名	
日本語教育実習(台湾コース)	12月1日(日)～12月8日(日)	8日間	台湾・国立陽明交通大学	学生4名、引率1名	
外国語学部英米海外研修(米国)	2月15日(土)～3月11日(火)	25日間	米国・ベセル大学	学生4名	

### 海外への派遣学生数

	派遣先大学名	令和6(2024)年度				令和5(2023)年度まで						
		交換1年	交換1学期	短期認定*3	サマーP*2	交換	交換1学期	短期交換	短期認定*3	サマーP*2	HSP*1	短期派遣
アメリカ	モンタナ州立大学					77						25
	モンタナ大学					21						
	キャロル大学					29						22
	ロッキーマウンテン大学											4
	インカーネットワーク大学					35						
	アワーレディオブザレイク大学(熊本市交流事業)					7						
	ウイスコンシン大学オークレア校					10		9				
カナダ	ハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジ			1					10			
	セント・メアリーズ大学					36		2				
イギリス	カールトン大学					10						
	リバプールジョンモーズ大学					41		11				91
	アルスター大学					8						19
フランス	セントラル・ランカシャー大学	1			10	9				111		
	リヨン商科大学					2						
ドイツ	ボワチエ大学					1						
	ラインランド・プファルツ州立経済大学											16
オーストラリア	ラトローブ大学					33		5			124	
ニュージーランド	ユニテック工科大学					28		8		22	103	14
	クライストチャーチ工科大学					3			29			
韓国	大田大学校	2	1			105	2					
	全南大学校					3	3					
中国語圏	深圳大学					62	1					
	中国人民大学					8						
	北京外国語大学					14						
	北京語言大学					11						
	北京第二外国語学院	1				12						
	広西師範大学(熊本市交流事業)					9						
ベトナム	崑山科技大学					4						
	ベトナム国家大学ハノイ校					9						
タイ	チュラロンコン大学					4						
合計		4	1	1	10	591	6	35	39	133	227	191

※ 網掛けの協定校は、現在交流を行っていない大学

※ 短期派遣留学(2ヶ月派遣)は、平成18年度をもって終了

※ 短期交換留学は、令和元年度をもって終了

※ 短期語学ホームステイプログラムは、平成24年度をもって終了

※ サマープログラム(1ヶ月派遣)は、平成25年度開始

※ 短期認定留学は、平成28年度開始

\*1: 短期語学ホームステイプログラム

\*2: サマープログラム

\*3: 短期認定留学

## 令和6(2024)年度 出身国・地域別外国人留学生数(在籍者数)

## 春学期

令和6(2024)年5月1日現在

国籍 (国・地域名)	学部学生					研究生			大学院生								交換留学生	合計
	1	2	3	4以上	計	学部	院	計	修1	修2以上	会計専門職1	会計専門職2	博1	博2	博3以上	計		
中国		2	1	7	10			0	3	7	2		1			13	2	25
韓国					0			0								0	4	4
台湾					0			0								0	2	2
ベトナム	1		1		2			0								0	1	3
ネパール	2				2			0								0	0	2
合計	3	2	2	7	14	0	0	0	3	7	2	0	1	0	0	13	9	36

※「留学」の在留資格を持っている学生のみ。

## 秋学期

令和6(2024)年10月1日現在

国籍 (国・地域名)	学部学生					研究生			大学院生								交換留学生	合計
	1	2	3	4以上	計	学部	院	計	修1	修2以上	会計専門職1	会計専門職2	博1	博2	博3以上	計		
中国		1	1	7	9			0	3	6	2		1			12	1	22
韓国					0			0								0	3	3
台湾					0			0								0	2	2
ベトナム	1		1		2	1		1								0	1	4
ネパール	2				2			0								0	0	2
合計	3	1	2	7	13	1	0	1	3	6	2	0	1	0	0	12	7	33

※「留学」の在留資格を持っている学生のみ。

## 令和6(2024)年度 留学生の主な参加行事

名称	主催	内容	期日
新入留学生オリエンテーション	熊本学園大学国際教育課	履修指導および大学生生活全般に係る説明・在留資格等行政手続きに関する説明など	4月4日(木)
留学生ピクニック	熊本学園大学国際教育課	熊本市動植物園散策	4月13日(土)
春の新入留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入留学生の歓迎会	5月15日(水)
Welcome Party 2024	大学コンソーシアム熊本	熊本県内の新入留学生との交流会	5月19日(日)
第34回外国人留学生弁論大会	熊本学園大学国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	6月12日(水)
第47回火の国まつりおてもやん総おどり	火の国まつり運営委員会・熊本市	大学コンソーシアム熊本・留学生チームとして参加	8月3日(土)
秋の新入留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入留学生の歓迎会	10月9日(水)
秋の留学生バスハイク	熊本学園大学国際教育課	阿蘇・杵島岳登山	10月12日(土)
第57回託麻祭	熊本学園大学	留学生チームとしてタビオカミルクティー模擬店を出店	11月3日(日)～ 11月4日(月)
留学生のための就活準備講座 ～自己分析・企業分析～	大学コンソーシアム熊本	日本での就職活動の仕組み・準備に仕方について	12月14日(土)
敬愛幼稚園クリスマスパーティー	熊本学園大学付属敬愛幼稚園	敬愛幼稚園にやってきたサンタと園児の交流	12月23日(月)
第49回学長杯争奪全学生駅伝大会	熊本学園大学	留学生チームとして出場	1月11日(土)
外国人留学生対象就職ガイダンス	熊本学園大学就職課	日本での就職活動について	1月22日(水)
日本文化体験ワークショップ 和菓子づくり体験	大学コンソーシアム熊本	和菓子づくり体験	2月12日(水)

国際交流委員会メンバー  
(令和6(2024)年4月～令和8(2026)年3月)

委員長	向井 洋子
商学部	小深田 祐子
経済学部	佐藤 加寿子
外国語学部	矢富 弘
社会福祉学部	小田切 建太郎
大学院	藤塚 千秋
国際教育課	切通 しのぶ

国際教育課スタッフ  
(令和6(2024)年4月～)

教学部事務次長	切通 しのぶ
国際教育課長	
係長	北原 かおり (～令和6(2024)年11月)
係長	入江 美里
	瀬野 智博 (令和6(2024)年10月～)
	野口 宏美
	樋口 絢郁
国際交流会館	山田 茂樹

熊本学園大学 国際教育課(新1号館1階)  
〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号  
TEL: 096-366-3230 (直通) E-mail: ip-kgu@kumagaku.ac.jp  
窓口時間: 平日 8:45～17:15 土日祝 休

国際教育課 HP



国際教育課 Instagram

